

大きなけやきの木の下で 絵本のはなしをしましょうよ。



2023年 7月のはじめごろ こまばようちえん

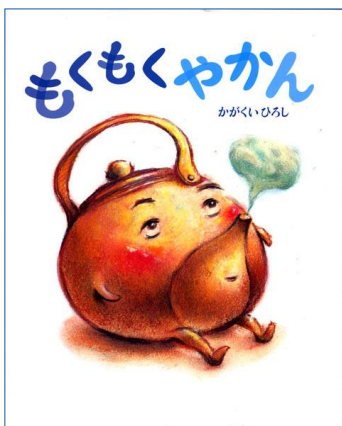
みなさま、こんにちは！

暑いですね。道を歩く時も、日陰を選んで歩くようにしています。街路樹の木陰のなんてありがたいこと。隣家のサルスベリのピンクの花が咲きました。いつもより、少し早めです。サルスベリの幹はなめらかで、触るとツルツルしていて気持ちいいです。花は、「百日紅」と書くように秋まで咲きます。朝顔、ひまわり、白粉花。次々に夏の花が登場してきますね。

夏休みが始まります。暑い夏が好きな花や虫たちに出会ってみてくださいね。

では、大きなけやきの木の下で、絵本のはなしをいたしましょう。

① たんぽぽ組・年少組のみなさんに。



● 『もくもくやかん』

かがいひろし・作（講談社）1650円/2007

お話は、「ぎらぎら ぎらぎら……それは なんにちも なんにちも あめがふらず、だいちがひあがっていた時のことでした。」で始まります。やかんやきゅうすやポットたちが集まって、「大きく息を吸ってー」「止めて」「ためて」「出して！」というかけ声のもと、プシュー、とは

きだしたものは、雲！ それも雨雲！ 待望の「ポツン！」が来て、「ザザザザザー」。擬音も絵も全部楽しい！「だるまさん」シリーズなどで人気のかぐいひろしさんの作品。特別支援学校の先生でしたが、2005年に「おもちのきもち」でデビュー。2009年に亡くなるまで、多くの絵本をこどもたちに届けてくれました。もっと絵本を作って欲しかったです。（須藤）



● 『みずまき』

木葉井悦子・作 （講談社）2003年 重版未定

なんてダイナミックな絵なのでしょう。「たいようがにわのまうえをとおりすぎました。あつくて あつくてみんなひるねです。」の場面では、家の座敷で大の字になって寝ている女の子がいます。そして次の場面では、その子が、元気よく水まきを始めます。「にわのみなさん、おきてください。あめだぞ。あめだぞ」。ナメクジやらボウフラやら青虫やら、むく鳥やらこがね虫やら、みんな起きて雨に打たれます。あー、きもちよさそう！ 最後は、浴衣を着てうちわであおぎながら、縁側にいる女の子。蚊やり豚や風鈴、日本の夏、ですね。（須藤）

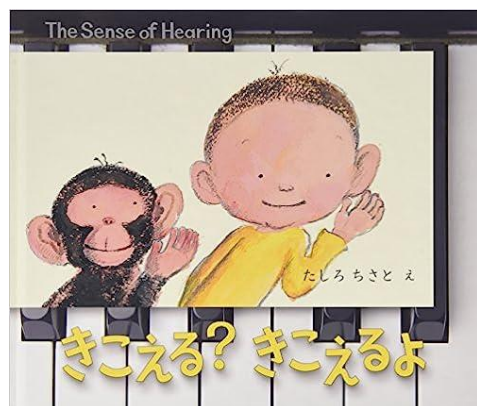


● 『くれよんのはなし』

ドン・フリーマン作 さいおんじ さちこ 訳 (ほるぷ出版) 1976年/1100円

クレヨンの箱に入っている8色のくれよんたち。それぞれのくれよんは、1枚の白い画用紙へ順々に絵を描いていきます。青くれよんは空と海を、黄くれよんは太陽と島を、という具合に。あれあれ？島の上に描き込んだ男の子が悲しそう。これはSOSと船を登場させたものの、そのあとはどうしよう？…わあ、男の子の隣に描きこんでいたカメが大活躍～、ホッ。よかったよかった。

動かないはずの絵が動き出すような瞬間とその不思議さ。シンプルな構図で、やわらかく繊細なタッチの絵が少しずつ描き足されていくという手法は楽しくてわかりやすい。時間の経過と共に変化していく海の風景も、美しくて見逃せません。(近藤)



●『The Sense of Hearing きこえる?きこえるよ』
たしろ ちさと 絵 田中 尚人 案 (グランママ社)2008年/1320円

「感覚(聴覚)」の本。まずはなんといってもセンスがよくておしゃれな装丁に目を奪われます。言葉はなく、絵だけ→主人公の幼い男の子がベッドで親にねかしつけられている…目覚まし時計が鳴っている…プールに飛びこむ…楽器やおもちゃで遊ぶ…親が料理している…ごはんを食べる…電車のふみきり近くで立っている…雨ふりの外へでかける…。「どんな音がすると思う? きっとこんな音じゃないかな?」なーんていっしょにおもしろがって遊ぶように読めます。記憶と体験を頼りに、聞こえないはずの「音」が次々とあふれでる!? 新鮮な楽しさに出会ってもらえますように。そして、これからの育ちを強力に下支えしていく「感覚」の大切さをお伝えするには、残念ながら字数が足りません(泣)。同じ作者による『くんくん、いいにおい』他、『ふわふわ、ぼかぼか/ふくだじゅんこ絵』『あまいね、しょっぱいよ/ふくだじゅんこ絵』感覚全開のシリーズも楽しくてオススメです。(近藤)

年中・年長組のみなさんに。



● 『かもめたくはいびん』

いしいひろし・作 (白泉社)1320 円/2015 年

かもめ宅配便はとても忙しいので、やめてしまうかもめもたくさんいました。そこで店長はある時送られてきた手紙の中から、鋭い目(だけ)の写真を見て、「こいつは、長続きするに違いない」と思い、採用します。ところが、なんと、それはペンギンさんだったのです。空を飛べないペンギンさんは、荷物を運べないので、店長は受付や荷物の仕分けを頼みますが、いまいちうまくいきません。でもある日、店長もペンギンさんも気がついたのです。「ペンギンは、泳げる!」。嬉々として泳いで荷物をはこぶペンギンさん。待望の宅配便屋さんになれたと思ったのだけれど……。やれやれ、悩みはつきません。(須藤)



● 『バスにのるひ』

はせがわさとみ・作 nakaban・絵 (絵本塾出版)1,650 円/2021 年

山に住んでいるきつねの子が、初めてバスに乗って街に住んでいるおじさんの家に行きます。おじさんもきつねですが、人間として生活しています。きつねの子はおじさんが、送ってくれた銀貨 1 枚とバス停の数だけの木の実を持ってバスに乗ります。バス停ごとに、一つ木の実を食べていけば安心です。ところが、隣に座った赤ちゃんが木の実を触ろうとして、あら、大変。木の実はバスの中にコロコロ転がってしまいました。もう、いくつあったのかわかりません。どこで降りたらいいのかもわかりません。きつねの子はドキドキ。涙もポロリ。無事におじさんの待つバス停に着くことができるでしょうか。バスから見る海の絵がキラキラ輝いていてとても美しいです。きつねの子と一緒にドキドキして、ホッと安堵してください。(須藤)



● 『おおいひょうたん』 西アフリカの昔話

吉沢 葉子 再話 斎藤 隆夫 絵 (福音館書店)2005 年/重版未定

女の子が畑で採ってもらった小さなひょうたんは、なんと、肉という肉を食いつくす「おおいひょうたん」でした。どうなるの？ちょっとこわいよー！となることうけあいの、こんな絵本はいかが？夏本番ですし。でもご安心を。本格昔話なので、安心めでたしのハッピーエンドです。親子でドキドキしながら楽しくページをめくってくださいね。

それはそうと、かの有名な『三びきのやぎのらがらどん/マーシャ・ブラウン』をはじめ、『おなかのかわ/瀬田貞二』『/まるごとごくり/S・ジェイムソン』など、「うわぁ次々に!？」というパワーインフレ的な昔話は、実は昔話の法則のひとつでもあって、洋の東西問わず、類話がたくさんあります。「…だけど大丈夫。最後は元どおり。悪者は天罰がくだって消える」ことも共通していておもしろい。大人は、「もしかしたら人間の飽くなき欲望を投影しているのかも」なんて深読みしたくもなるけれど、子どもは単純に心から楽しんで安心します。すばらしく印象的な絵は、『ずいとんさん』『かえるをのんだととさん』など、子どもたちが喜ぶ昔話絵本でもおなじみの斎藤隆夫氏。(近藤)



● 『ウミガメものがたり』

鈴木まもる 作 (童心社) 2016 年/1650 円

はあああ……。 (←この本をじっくり読み返して本を閉じたところ)…今、深い深い読後感に満たされております。

ある夏の夜の砂浜。1匹のウミガメ母さんが、海から上がってきました。卵を産むためです。さあ、生まれた子ガメたちの運命やいかに…！ どのページのウミガメの表情も、海中での光景も、目をそらせないほどの臨場感。がんばれ子ガメ！漫画のコマ割りのような見せ方も楽しい。雄大かつ厳しい大海原で長い年月を生き抜く1匹のウミガメのものがたりは、まさに、【いのちの物語】。ラストページはもはや、始まりのページです(雌ウミガメは生まれて約20年後、自分の誕生した砂浜へ戻って産卵するなんて知りませんでした)。

作者は、鳥の巣絵本シリーズでも有名な、鈴木まもる氏。氏の“センス・オブ・ワンダー”と、生きとし生けるものへの愛とリスペクトを感じずにはいられません。ますます重要課題になっていくであろう、自然と人間の関係も考えさせられます。(近藤)

② 大人のみなさんに。



● 「よじはん よじはん」

ユン ソクチュン・文 イ ヨンギョン・絵 神谷丹路・訳
(福音館書店)2007年 重版未定

韓国朝鮮のお話。1940年ごろ、まだ普通の家には時計がありませんでした。なんて可愛らしい女の子でしょう。お母さんに頼まれて隣のお店のおじさんに、「今、何時？」と聞きに行きます。「四時半だよ」と言われ、女の子は「四時半、四時半」と繰り返しながら、家に帰るのですが……。水を飲んでるニワトリや何かを運んでいるありの行列や、トンボやおしろい花と出会っちゃうのです。たっぷり道草を食べて、家に帰ったときにはもう日が暮れていました。でも女の子は、ちゃんとお母さんに伝えますよ。「今、四時半だって」。お店と女の子の家の距離感が最後にわかって、あらあら。子供時間に時計は不要ですね。(須藤)



● 『漂流物』

デイヴィッド・ウィーズナー 作 (BL 出版)2007 年/1980 円

ある夏の日。浜辺で自然観察するのが大好きな男の子が、波に打ち上げられた箱型の防水カメラを拾います。フィルムを現像すると、そこに写し出されていたのは、なななんと…！！！！ネタバレになると楽しくないので、涙をのんであらすじ紹介を控えますね。とにかく、この絵本に出会ったときの衝撃たるや。まるで一篇の無声ショートムービー…それもこわいほどに秀逸な。ジャンルとしてはSFファンタジーかなあ、いやいや、決めつけたら陳腐になっちゃいそう。大人の知的好奇心とファンタジー心を豪快にくすぐってくれます。楽しまれたあとはぜひ感想を熱く(?)語りあいましょう♡

初版は 16 年前。作者はこの作品で、アメリカで最も権威あるコルデコット賞を受賞(3 度目の受賞とは凄すぎます)。唯一無二感すら漂う内容の素晴らしさもさることながら、圧倒的な画力にも酔いしれたい。(近藤)



● 『子どもとたのしむ 101のあそび』

童話館出版編集部 編著 長谷 康 イラスト (童話館出版)1998 年/1572 円

親だからこそできる大切なことってどんなことでしょうか？衣食住を整え、満たすこと以外で。わたしは、「子どもの“今”をおもしろがって、よろこびや楽しさを共有すること」だと思います。というのも、たとえ短い時間でも「一緒に楽しく遊ぶ」ことを大切にするすることで、親は子どもの「今」がよく見えるようになり、子は親をますます信頼し、一緒に暮らす「親と子」という人間同士としての関係性がよりよいものになる…ということ。これまでの経験や学びから確信しているからです。そんなわけで、この本を、心からオススメします♪主に家での遊び・夏休みの

過ごし方をより前向きにして、お互いがごきげんになる助けにもなってくれるんじゃないかなあ。子どもと一緒にページをめくりながら「今日はどの遊びをしようか？」と決めるのも素敵ですね。「えかきうた」「ふれあい遊び」など、お金も特別な道具も要らない素朴な遊びから、自然体験を楽しむ遊び。食べること片付けることなどの「生活」を遊びゴコロでワクワクに変える遊び。最後は「子どもとの一日をふり返る」遊び。うれしいことに、「遊びは学び」でもあります。一番「安心」できる大好きな親との楽しい遊びは、子どもの「うちがわ」をフカフカに耕し、豊かにしてくれることでしょう。(近藤)

・絵本はざっくりと次のように対象年齢にそって紹介していきます。ただ対象年齢はあくまで目安です。お子さんが興味を示した絵本、お子さんに読んであげたいと思った絵本を見つけたら、手にとってみてください。

- ① たんぽぽ組・年少組のみなさんに②年中・年長組のみなさんに③大人のみなさんに
- ・「重版未定」の絵本も積極的に取り上げます。図書館に入っていますし、リクエストが多くなると復刊される可能性もあります。
 - ・紹介した絵本は重版未定(中古品)も含めて藤井チズ子前理事長からいただいた寄附金で極力購入し、本の部屋に入れます。藤色のテープが目印です。